

前半は五浦スタディ・ツアーの報告、後半は出前授業の準備を行いました。

岡倉天心ゆかりの地・五浦を訪ねる（報告）

報告：藤嶋俊會

岡倉覚三（天心）にとって、五浦はどのような場所だったのでしょうか、五浦で岡倉は何をしたのでしょうか、そして何故五浦だったのでしょうか。これらの視点から、現地で撮ってきた写真や新たな調査資料を交えて報告がなされました。

文字通りの背水の陣に日本美術院研究所や六角堂が建てられた五浦の地は、ただの隠居所ではなく、岡倉を東京美術学校非職にした中央に向かって反撃に出るための陣地と読み取れます。六角堂とその周辺は、小泉教授によればインド・中国・日本のハイブリッドな場所です。ボストン美術館に勤務した岡倉にとって、五浦とはアメリカに対してアジアをアピールする文化戦略の基地であり、ボストン美術館の東洋部を充実することで、日本の文化行政に対して巻き返しを図ろうとしたのではないのでしょうか。

「出前授業」の進め方（提案・討議）

進行：廣島亨

これからの進め方としては、三溪園の催し物と連動して実施する方向で検討を進めました。具体的なコンテンツとしては、三溪園や原三溪に関する子ども向けのクイズやかるた、紙芝居を想定しています。参考として、子ども向けにインドや高山社を紹介する書籍や、横浜美術館の常設展示室で配布されているリーフレット「大佛次郎ってどんな人でしょう？」等が挙げられました。



交流会の打合せ

7月28日（日）と29日（月）に、岐阜から「原三溪・柳津文化の里構想実行委員会」のメンバーが横浜を訪れます。柳津の企画として交流会を開催するほか、原三溪市民研究会の企画として28日の午後に野毛山から関内地区までをウォーキング、29日の午前には三溪園の見学を行うので、案内役や旗持ち係などの分担を決めました。

また、7月15日（月）には有志でウォーキングの下見を実施しました。



7月15日にウォーキングの下見。原合名会社貸事務所跡の前に立つ。